

文化と宗教の多様性

現代社会

憲法

政治

経済

国際社会

これから

今日の問い

文化や宗教のちがいがあある世界で、どうすればたがいに理解し合えるのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 文化の多様性と摩擦

文化摩擦

文化摩擦

文化のちがいがから起こる対立や行きちがいがい。

異文化理解

自分と異なる文化を知り、尊重すること。

世界遺産

人類共通の宝としてユネスコが登録するもの。

世界の国々には、言語、食べ物、服装、習慣など、それぞれの歴史や自然に根ざした多様な文化がある。人や情報の行き来がふえるにつれて、文化のちがいがから行きちがいがい対立が生まれることもあり、これを**文化摩擦**という。たとえば、宗教によって食べてよい物が決まっている国や地域があり、食事の場でとまどう例もある。日本の食文化や祭りなども、外国の人にとっては新鮮な異文化である。

文化摩擦を防ぐには、相手の文化を知って尊重する**異文化理解**が欠かせない。国連のユネスコ(UNESCO)は、世界遺産条約にもとづいて**世界遺産**を登録し、各地の文化や自然を守る活動を進めている。自国の文化に誇りをもちながら、ほかの文化も大切にする姿勢が、世界の平和につながる。

2 宗教のちがいと共存

宗教

世界宗教

国や民族をこえて広がった宗教。

信教の自由

憲法が保障する、宗教を信じる自由。

寛容

ちがいを受け入れ、認める心。

宗教は、人々の考え方や暮らしに深く関わっている。国や民族をこえて広まった**キリスト教****イスラム教****仏教**は**世界宗教**とよばれ、そのほかにインドで信者の多い**ヒンドゥー教**など、地域ごとに根づいた宗教もある。同じ宗教でも、国や地域によって習慣や行事にちがいがみられる。

宗教のちがいが、民族や領土の対立と結びつくと、争いに発展することもある。エルサレムは、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖地とされ、周辺では今も対立が続いている。日本国憲法は第20条で**信教の自由**を保障している。世界の平和には、信じる宗教がちがう人どうしが、たがいの信仰を尊重する**寛容**の心が大切である。

宗教	主に広まった地域
キリスト教	ヨーロッパや南北アメリカなど
イスラム教	西アジア・北アフリカ・東南アジアなど
仏教	東アジア・東南アジアなど

問いへの答え

世界にはさまざまな文化があり、ちがいがから文化摩擦が起こることがある。これを防ぐには、異文化理解が大切で、ユネスコも世界遺産を登録して文化を守っている。宗教も人々の暮らしに深く関わり、対立の原因になることもあるが、信教の自由を認め、たがいの信仰を尊重する寛容の心が求められる。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

